

岡・丸尾・新村・西田中 『人・農地プラン』

市町村名	対象地区名 (地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
大和郡山市	矢田町・新町 (岡・丸尾・新村・西田中集落)	令和3年3月31日	令和 年 月 日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	33.4 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	22.3 ha
③後継者のいる農業者の耕作面積の合計	11.5 ha
④後継者のいない農業者の耕作面積の合計	10.6 ha
i うち75歳以上の農業者の耕作面積の合計	2.3 ha
ii うち5年後営農困難・不明の農業者の耕作面積の合計	5.2 ha
⑤地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	2.4 ha
(備考) 地区内の営農は水稻栽培を主としている。	

2 対象地区の課題

当該地域は、新町と矢田町の各一部の地域で、主に岡、丸尾、新村、西田中の4つの集落の農家が入り組んで耕作している地域である。以前は、水稻栽培に加えてビニールハウスでのイチゴ栽培と丘陵地でのブドウ栽培が盛んに行われていた。しかし、農業者の高齢化にともない、後継者は水稻栽培の兼業農家となり、現在では専業農家は数戸で増える傾向にはない。また、後継者のいる専業農家があるものの、5割以上の農家で後継者がおらず、農業者の高齢化も進んでいることから、認定農業者・認定新規就農者等の中心経営体となる担い手を、集落内外から増やしていくことが、早急な課題である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- 集落内の農地利用については、農地バンク制度の周知を図り、機構を通じて担い手に、農地を集積・集約化していく。
- 集落内で耕作されなくなった、若しくは耕作されなくなる農地については、中心経営体に集約化していく。
- 集落内の分散している農地を担い手に集積・集約化し、この担い手を新たに認定農業者や認定新規就農者として育成することにより、中心経営体に位置づけていく。
- 集落内の耕作放棄地は集落内で協力し解消していく。
- 集落外からの担い手を受け入れることも視野に入れ、水管理や畦草刈り等の水田管理体制を整える。
- 集落内において、農地を管理するための営農組織作りも将来的に考えていく。

(参 考) 中心経営体

属性	農 業 者 (氏 名 ・ 名 称)	現 状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積(a) (地区内経営面積)	経営作目	経営面積(a)	農業を営む範囲
認農		ロメインレタス その他野菜 育苗	161	ロメインレタス その他野菜 育苗	40	新 町 満願寺町
認農		イチゴ 丸ナス 水 稲	121	イチゴ 丸ナス 水 稲	30	新 町 矢 田 町
認農		ブドウ	110	ブドウ	20	新 町 満願寺町
認農		植 木 水 稲	256	植 木 水 稲	50	新 町 矢 田 町
認農		植 木 水 稲	190	植 木 水 稲	100	新 町 矢 田 町

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

○農地の貸付等の推進

現在、集落内においては、農家の高齢化と後継者不足が切実な問題となっており、将来的に営農困難な農家の多くが、農地の貸付意向である。

また、農家の高齢化と後継者不足や土地持ち非農家が増えていることから、地区内の農地利用・保全のため分散圃場の解消や担い手への農地集積・集約化を進めやすくし、耕作放棄地を防止するために適正な農地管理を行う。

また、営農環境を改善するため、農地区画の整理・拡大、不整形・小規模水田の解消、水路・農道等整備など基盤整備を、検討する。

○農地中間管理機構の活用方針

新たに、中心経営体に位置づける認定農業者を集落内外から育成、また、集落内における農地保全の営農組織等の設立も視野に入れながら、中心経営体を増やす。

集落内の農地において、それらの中心経営体に農地の集積・集約化を促進するため、農地中間管理機構を積極的に活用する。そのためには、今後、担い手がおらず、耕作されなくなった農地については、原則として機構に順次登録していく。

中心経営体が病気や怪我等の事情で、営農の継続が困難になった場合には、機構の機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるように、機構を通じて他の中心経営体への貸付を進めていく。